

## 2 中学校第2学年

### (1) 国語

#### ① 概要

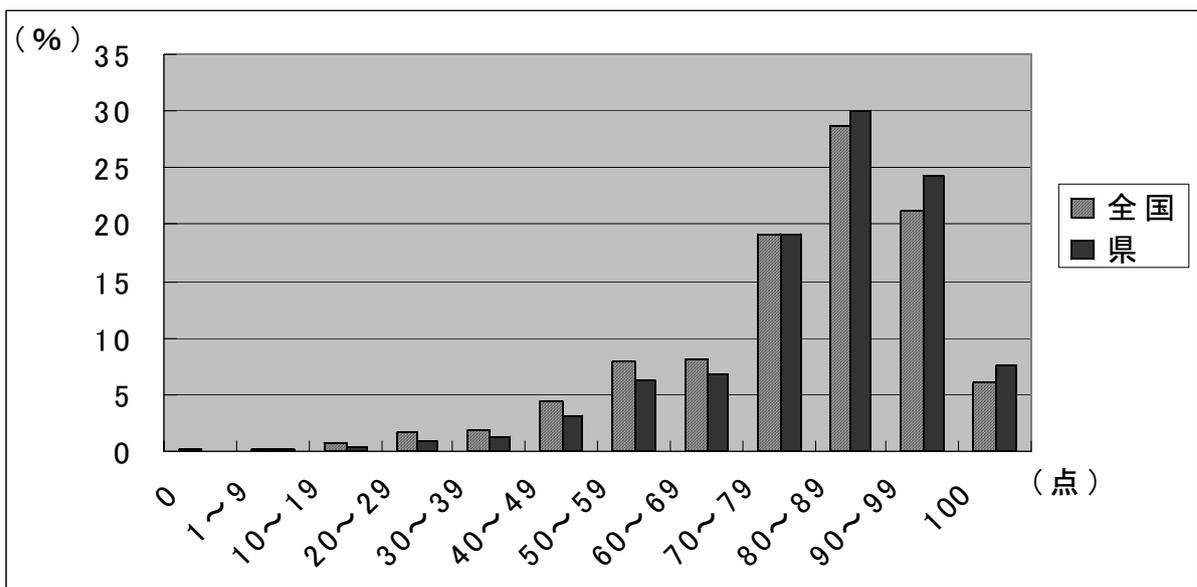
教科全体，各領域ともに全国平均よりやや高い。特に、「書くこと」は全国平均よりも5.1ポイント高い。また，関心・意欲・態度においても全国平均よりやや高く，概ね満足できる結果であった。

今後は，説明的文章においては，段落ごとの要点を的確に読み取りながら文章全体の要旨を把握させる指導，また，文学的文章においては，心情の変化を表現上の工夫と絡めて読み取らせる指導の充実が必要である。

#### ② 平均点

		全国	宮崎県	全国との差
全 体	教科全体	77.8	80.6	2.8
	基礎	80.5	83.4	2.9
	応用	71.4	74.1	2.7
観 点 別	話す力・聞く力	84.1	86.4	2.3
	書く力	69.1	74.2	5.1
	読む力	69.8	72.3	2.5
	言語についての知識・理解・技能	82.8	85.8	3.0
領 域 別	音声言語	84.1	86.4	2.3
	説明的文章	66.8	68.9	2.1
	文学的文章	72.8	75.7	2.9
	言語事項	82.2	85.3	3.1

#### ③ 得点分布グラフ



④ 小問ごとの出題内容と通過率

大	小	出題内容	観点別	領域別	全国	県	全国との差
1	1	話題の順序の聞き取り	話す・聞く	音声言語	89.1	90.7	1.6
	2	話し合いの内容の聞き取り	話す・聞く	音声言語	89.8	90.3	0.5
	3	話し合いの内容の聞き取り	話す・聞く	音声言語	73.5	78.3	4.8
2	1	漢字の読み	言語	言語事項	93.6	95.6	2.0
	2	漢字の読み	言語	言語事項	94.5	95.4	0.9
	3	漢字の読み	言語	言語事項	95.3	96.8	1.5
	4	漢字の読み	言語	言語事項	79.6	87.0	7.4
	5	漢字の書き	言語	言語事項	77.0	81.8	4.8
	6	漢字の書き	言語	言語事項	76.6	80.7	4.1
	7	漢字の書き	言語	言語事項	81.2	83.6	2.4
	8	漢字の書き	言語	言語事項	73.7	78.7	5.0
3	1	1 文節の区別	言語	言語事項	97.1	98.1	1.0
		2 主語の指摘・文節の区別	言語	言語事項	58.4	59.2	0.8
	2	1 文の成分	言語	言語事項	68.6	71.8	3.2
		2 文の成分	言語	言語事項	78.5	81.0	2.5
	3	1 部首	言語	言語事項	86.4	91.4	5.0
		2 部首	言語	言語事項	89.5	93.1	3.6
4	1	文脈に即した内容の理解	読む	説明的文章	56.6	57.3	0.7
	2	適切な接続詞の選択	読む・言語	説明的文章	92.4	93.3	0.9
	3	文脈に即した内容の理解と記述	書く・読む	説明的文章	44.8	48.7	3.9
	4	文脈に即した内容の理解	読む	説明的文章	54.2	53.7	-0.5
	5	主語に対する考えの記述	書く・読む	説明的文章	85.8	91.4	5.6
5	1	文脈に即した内容の理解	読む	文学的文章	72.4	74.3	1.9
	2	文脈に即した内容の理解	書く・読む	文学的文章	70.1	74.9	4.8
	3	人物の心情の理解	読む	文学的文章	73.4	73.9	0.5
	4	比喩表現の理解	読む	文学的文章	72.4	73.5	1.1
	5	人物への助言の記述	書く・読む	文学的文章	75.7	81.8	6.1

※「観点別」の「言語」……「言語についての知識・理解・技能」

## ⑤ 領域ごとの考察

### ア 音声言語

すべての小問で全国平均を上回っており、領域全体では2.3ポイント上回っている。特に、話し合いの全体を把握しなければならない小問3は、4.8ポイント高かった。しかし、話の細部を尋ねた小問2は、全国平均との差がほとんどない。

そこで、指導に当たっては、平常の授業における「聞く」能力を育成するために、目的や場面に応じた話し方、聞き方の学習活動を取り入れ、要点を正確に聞き取ることに慣れさせることが大切である。また、聞きながらメモを取る練習をさせたりすることも大切である。

### イ 説明的文章

小問4以外は、全国平均を上回っており、領域全体では2.1ポイント上回っている。特に、記述式では、小問3が3.9ポイント、小問5が5.6ポイント上回っている。しかし、選択式では、小問4の「文脈に即した内容の理解」が0.5ポイント低く、小問1と小問2は全国平均との差がほとんどない。

そこで、指導に当たっては、該当部分を的確に把握する力を育成するために、文章の中心の部分と付加的な部分を読み分けながら、文章の構成や展開が全体の中でどのような役割をしているかをとらえさせることが大切である。そして、文章中に繰り返し出てくる言葉に注意させ、対比して挙げられている事柄を分析しながら読ませることが必要である。

### ウ 文学的文章

すべての小問で全国平均を上回っており、領域全体では2.9ポイント上回っている。特に、「人物への助言の記述」の通過率は全国に比べて高い。しかし、出題内容が同じ「文脈に即した内容の理解」であった小問1と小問2は、小問2が全国と比べて4.8ポイントも上回っているのに対して、小問1は1.9ポイントしか上回っていない。これは、小問2が直後を読めば解答が書けるのに対して、小問1は傍線部よりも前の文章全体を把握できなければ解答できないところから生じたものと考えられる。

そこで、指導に当たっては、登場人物の言動に注意しながら場面の展開を把握させることが必要である。また、作品を味わい深いものにしていく比喩・体言止め・倒置など、文章中の工夫された表現に注目して、作者独自の感覚や心情をつかませる指導が大切である。

### エ 言語事項

すべての小問で全国平均を上回っており、領域全体では3.1ポイント上回り、他領域よりも高い。「言語事項」領域における、基礎・基本の定着が図られている。しかし、「文節の区別」と「主語の指摘・文節の区別」の小問二つは全国とあまり差がない。

そこで、指導に当たっては、文節や主語・述語の概念的理解を進めるため、文脈に応じた適切な使い方を考えさせたり、小テスト等を計画的に行ったりして、継続的に指導することが必要である。

(2) 社会

① 概要

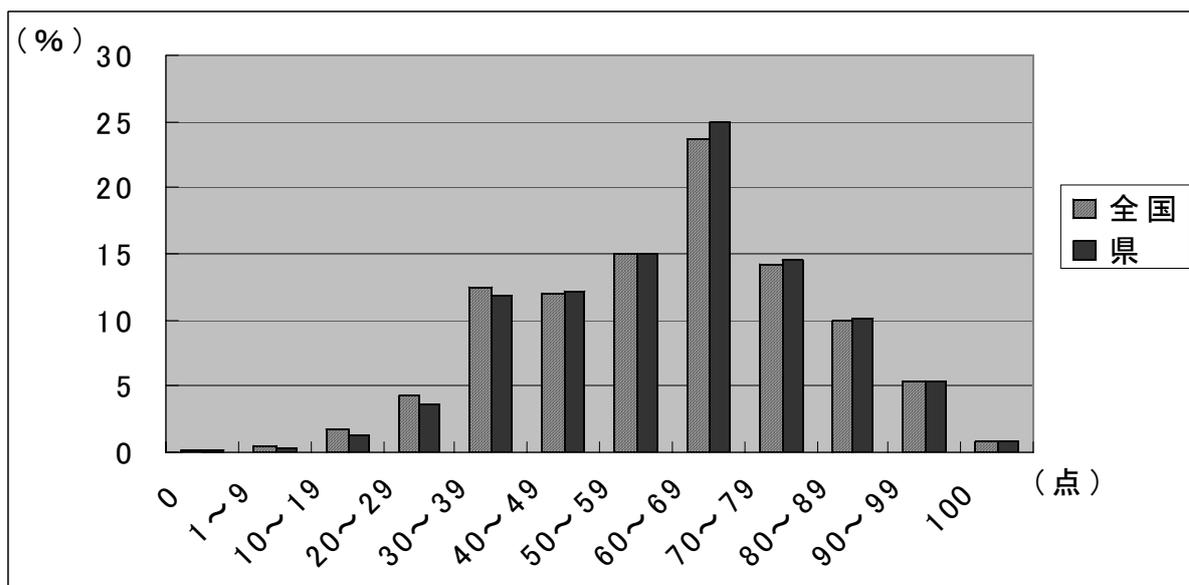
教科全体、各領域ともに全国平均とほぼ同じであるが、基礎的な内容が問われている「日本の地域構成」の領域では、正答した生徒の割合が全国平均よりわずかに低い結果がみられる。関心・意欲・態度も全国平均とほぼ同じ結果であった。

今後は、地球儀や地図を活用して、国土の位置や領域の特色を具体的にとらえたり、都道府県名や都道府県庁所在地の理解を深め、関心を一層高めたりする工夫が必要である。また、社会的な思考・判断を育成する場面などを授業の中で取り上げることも必要である。

② 平均点

		全国	宮崎県	全国との差
全 体	教科全体	59.9	60.6	0.7
	基礎	60.6	61.6	1.0
	応用	58.1	58.4	0.3
観 点 別	社会的な思考・判断	64.2	64.6	0.4
	観察・資料活用 of 技能・表現	68.5	69.6	1.1
	社会的事象についての知識・理解	57.4	58.3	0.9
領 域 別	世界と日本の地域構成	55.3	55.5	0.2
	地域の規模に応じた調査	69.9	71.4	1.5
	歴史の流れと地域の歴史・古代までの日本	63.9	65.3	1.4
	中世の日本	55.2	55.8	0.6

③ 得点分布グラフ



④ 小問ごとの出題内容と通過率

大	小	出題内容	観点別	領域別	全国	県	全国との差
1	1	海洋の分布	技能・表現 知識・理解	世界と日本の地域構成	75.5	76.9	1.4
	2	大陸の分布	技能・表現 知識・理解		73.7	76.0	2.3
	3	時差	技能・表現		49.8	49.9	0.1
2	1	世界の国々のすがた	思考・判断 知識・理解		51.6	52.1	0.5
	2	南アメリカのすがた	技能・表現 知識・理解		71.3	72.0	0.7
3	1	日本の領域	知識・理解		43.2	42.4	-0.8
	2	日本の経済水域	知識・理解		35.7	35.4	-0.3
4	1	都道府県のすがた	知識・理解		35.2	33.6	-1.6
	2	都道府県のすがた	知識・理解		61.5	61.2	-0.3
5	1	地図記号	知識・理解		地域の規模に応じた調査	56.0	58.7
	2	グラフの作図	技能・表現	82.0		82.7	0.7
	3	地域の変化の考察	思考・判断 技能・表現	71.7		72.7	1.0
6		身近な地域の歴史を調べる	思考・判断 技能・表現	歴史の流れと地域の歴史・古代までの日本	81.3	81.9	0.6
7	1	文明の起こり	知識・理解		88.6	92.1	3.5
	2	大和朝廷の成立	知識・理解		53.7	55.3	1.6
8	1	聖徳太子の国づくり	思考・判断 技能・表現 知識・理解	61.1	61.8	0.7	
	2	律令国家における農民の生活	知識・理解	46.0	46.7	0.7	
	3	藤原氏の政治	技能・表現 知識・理解	63.4	66.8	3.4	
	4	律令国家の変化	知識・理解	53.2	52.9	-0.3	
9	1	鎌倉幕府の成立	知識・理解	中世の日本	42.2	43.4	1.2
	2	武家と公家の関係	技能・表現 知識・理解		68.2	69.8	1.6
	3	人々の暮らしと信仰	思考・判断 技能・表現 知識・理解		55.1	54.8	-0.3
	4	元寇と鎌倉幕府	知識・理解		55.2	55.1	-0.1

## ⑤ 領域ごとの考察

### ア 世界と日本の地域構成

この領域は他の領域と比較すると、全国、宮崎県ともに通過率が低く、特に宮崎県の場合、すべての領域の中で最も低い結果である。基礎的な内容が問われている小問の通過率は高いが、応用の小問では通過率が低い結果になっている。また、「日本の地域構成」の領域でも、宮崎県はすべての小問で全国平均よりわずかに低くなっている。

そこで、指導に当たっては、地球儀や世界地図を活用し、緯度、経度や大陸のおよその位置関係など、地球表面の姿を大まかにとらえさせる必要がある。また、我が国の国土の位置や領域の特色を多面的・多角的にとらえさせ、都道府県名や都道府県庁所在地名の由来に触れるなどして、生徒の興味・関心を一層高めるなどの工夫が必要である。この領域が地理的分野の導入部分であり、世界と日本の地域構成の基本的な枠組みに関する学習として位置付けられていることから、別の領域と関連させて取り扱うことが大切である。

### イ 地域の規模に応じた調査

領域全体で見るとほぼ全国平均と同じであるが、小問別にみると、地図記号の小問の通過率が58.7%と低い結果が出ている。

そこで、指導に当たっては、観察や調査などの活動を通して、身近な地域に対する理解と関心を深めさせる必要がある。その際、縮尺の大きな地図や統計その他の資料に親しませ、それらの活用の技能を高めることが大切である。

### ウ 歴史の流れと地域の歴史・古代までの日本

領域全体で見るとほぼ全国平均と同じである。「古代までの日本」では、国家が形成され、その仕組みが整えられていく過程や人々の生活に関する小問の通過率が、他の小問と比較すると低い結果である。

そこで、指導に当たっては、博物館や郷土資料館、史跡の見学・調査を取り入れて、生徒の興味・関心を高める工夫を行うことが大切である。また、それぞれの時代の特色や人々の生活の変化を一覧表にまとめるなどの作業的な学習によって、時代の特色を大きくとらえさせることも重要である。

### エ 中世の日本

領域全体で見るとほぼ全国平均と同じであるが、この領域は他の領域と比較すると、全国、宮崎県ともに通過率が低い。特に、「鎌倉幕府の成立」に関する基礎の小問の通過率は43.4%と低い結果である。この領域は政治や社会、文化の面でさまざまな変化がみられ、内容の定着を図る工夫が必要である。

そこで、指導に当たっては、歴史の流れを大きく理解させるための工夫として、前後の時代と比較させたり、時代の変化を示す絵や地図、文献などの歴史資料を活用したりするなど、生徒の興味・関心を高めながら、授業を展開していく必要がある。

(3) 数学

① 概要

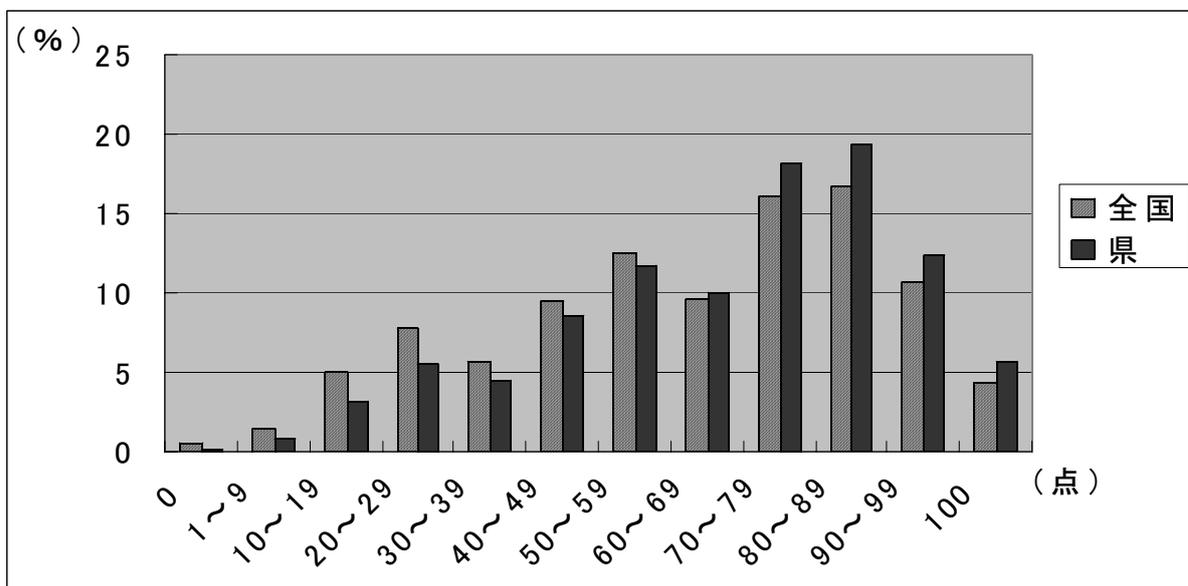
教科全体，各領域ともに全国平均より高い。「数と式」領域では非常に高いが，「図形」領域では，全国平均とほぼ同じである。関心・意欲・態度も全国平均より高く，概ね満足できる結果であった。

今後は，いろいろな角度から図形を見る習慣を身に付けさせるとともに，直観的な見方や考え方を深め，実生活と数学との関連を意識させることが必要である。

② 平均点

		全国	宮崎県	全国との差
全 体	教科全体	63.0	67.8	4.8
	基礎	64.1	68.8	4.7
	応用	58.2	63.4	5.2
観 点 別	数学的な見方や考え方	58.2	63.4	5.2
	数学的な表現・処理	59.6	64.8	5.2
	数量，図形などについての知識・理解	68.2	72.2	4.0
領 域 別	数と式	63.1	69.9	6.8
	図形	69.9	70.6	0.7
	数量関係	56.0	60.1	4.1

③ 得点分布グラフ



④ 小問ごとの出題内容と通過率

大	小	出題内容	観点別	領域別	全国	県	全国との差
1	1	絶対値の意味の理解	知識理解	数と式	64.2	70.8	6.6
	2	文字式における係数	知識理解	数と式	49.9	66.6	16.7
	3	等式の性質	知識理解	数と式	69.2	72.5	3.3
	4	文字式の表し方	知識理解	数と式	63.8	72.5	8.7
2	1	正の数・負の数の減法	表現処理	数と式	84.9	89.5	4.6
	2	累乗の計算	表現処理	数と式	63.9	68.8	4.9
	3	正の数・負の数の四則混合計算	表現処理	数と式	75.1	80.9	5.8
	4	一次式の減法	表現処理	数と式	63.2	71.8	8.6
	5	文字式への値の代入	表現処理	数と式	71.8	76.5	4.7
	6	一元一次方程式	表現処理	数と式	70.9	75.4	4.5
3	1	線対称な図形	知識理解	図形	75.6	72.7	-2.9
	2	円の構成要素	知識理解	図形	58.3	59.0	0.7
	3	垂直二等分線の作図方法	知識理解	図形	72.9	74.9	2.0
	4	点対称な図形	表現処理	図形	90.3	91.9	1.6
	5	正四角錐の体積	表現処理	図形	36.5	39.2	2.7
4	1	座標の意味の理解	知識理解	数量関係	85.8	89.4	3.6
	2	事象の中の比例関係	知識理解	数量関係	49.1	51.9	2.8
	3	反比例の関係を表す式	知識理解	数量関係	74.9	78.1	3.2
	4	比例のグラフの式	表現処理	数量関係	39.2	44.1	4.9
	5	比例の表と式	表現処理	数量関係	50.6	56.3	5.7
5	1	1 数量の関係を式で表現	考え方	数と式	44.7	52.0	7.3
		2 数量の関係を式で表現	表現処理	数と式	32.2	38.3	6.1
	2	1 具体的事象から一元一次方程式を解く	考え方	数と式	72.9	78.6	5.7
		2 具体的事象から一元一次方程式を解く	表現処理	数と式	67.9	73.4	5.5
	3	段数と三角形の個数の関係の一般化	考え方	数と式	51.4	60.2	8.8
	4	比例の利用	考え方	数量関係	36.3	40.6	4.3
	5	サイコロの展開図の作図	考え方	図形	86.0	85.9	-0.1

## ⑤ 領域ごとの考察

### ア 数と式

すべての小問で全国平均を上回っている。しかし、昨年度の類似問題との比較においては、実施時期の違いにもよると思われるが、ほとんどの問題で通過率が低くなっており、「数と式」領域における基礎・基本の定着を図る必要がある。

そこで、指導に当たっては、等式の変形については、いろいろな場面で利用されるので、性質を確実に理解させた上で、確認テストや小テストなどを通して、適宜指導していく必要がある。また、指数を含む式の計算のきまりを正確に定着させるためには、演習の機会を増やすことが欠かせない。四則の混合した計算については、どの段階でつまづいているのか把握し、計算順序の約束事を再度確認していくことが大切である。計算は、数学全般にわたって必要なものであり、年間を通して繰り返し練習することで、速く正確に処理する力を定着させたい。その際、途中の式を丁寧に書かせることで、不注意による誤りを防ぐ習慣を身に付けさせることが大切であり、小テストによる実態把握と個別指導の時間を充実させるとともに、継続した指導が重要である。

### イ 図形

領域全体で見ると全国平均をやや上回っているが、他の領域と比較するとやや低い結果である。

そこで、指導に当たっては、対称については、日常生活における「ずらす」、「まわす」、「裏返す」などの経験を通して、認識を深めさせ、線対称と点対称の違いを十分に理解させる必要がある。また、作図については、コンパスを使うと何ができるのか、十分に理解を深め活用する力を養成することが大切である。数学用語も確実に身に付けさせる必要がある。さらに、求積問題を通して、公式の正しい理解を図るとともに、立体の展開図にも慣れるように、模型を作ったり、実験したりするなど数学的活動の場を取り入れていく必要がある。

### ウ 数量関係

領域全体で見るとほぼ全国平均を上回っているが、比例の問題は低かった。

そこで、指導に当たっては、比例や反比例については、単なる式の暗記ではなく、数量の関係を表、式、グラフなどで表すことで、具体的なイメージをつくり、理解を深めさせることが大切である。また、グラフを多くかき、経験を積ませることによって、式からグラフのおおよその形を推測できるようにしておきたい。また、単に結果を出すだけでなく、その結果は何を根拠にどのような手順で導き出したのか、その過程で既習の知識をどのように生かしたかなど、自分なりの考えを筋道立てて説明したり、結果を導く過程を振り返ったりする活動を充実させる必要がある。

(4) 理科

① 概要

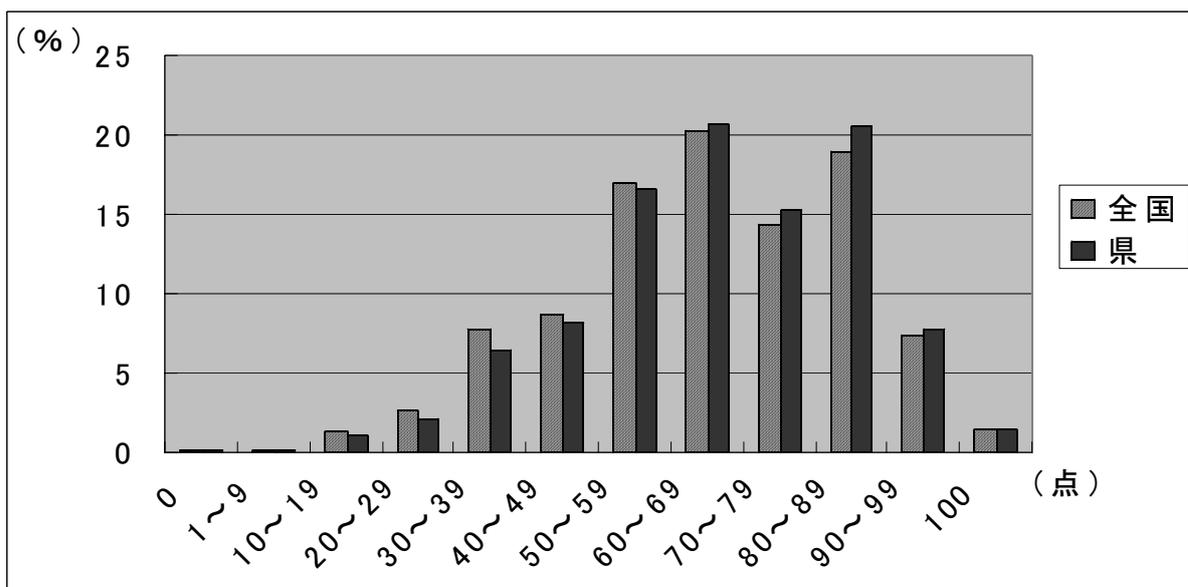
教科全体，各領域ともに全国平均とほぼ同じである。設問別にみると「物体にはたらく力」，「植物の分類」，「地震」の内容では，全国平均よりやや高く，「火山灰の観察方法」，「鉱物の種類」においてはやや低かった。また，理科に関する関心・意欲・態度は全国平均よりもやや高かった。

今後は，特に「大地の変化」の領域で，大地の活動の様子や身近な地形，地層，岩石などの観察を通して，地表に見られる様々な事物・現象を大地の変化と関連付けてみる見方や考え方を育成することが大切である。

② 平均点

		全国	宮崎県	全国との差
全 体	教科全体	65.0	66.5	1.5
	基礎	65.9	67.3	1.4
	応用	63.0	64.7	1.7
観 点 別	科学的な思考	57.7	59.4	1.7
	観察・実験の技能・表現	65.9	66.8	0.9
	自然事象についての知識・理解	68.6	70.5	1.9
領 域 別	身近な物理現象	62.6	64.4	1.8
	身の回りの物質	67.0	68.2	1.2
	植物の生活と種類	62.9	65.0	2.1
	大地の変化	68.4	69.0	0.6

③ 得点分布グラフ



## ④ 小問ごとの出題内容と通過率

大	小	出題内容	観点別	領域別	全国	県	全国との差
1	1	実像と虚像	知識・理解	身近な物理現象	59.9	62.2	2.3
	2	凸レンズの距離と実像の大きさ	技能・表現	身近な物理現象	57.9	59.4	1.5
	3	焦点距離	科学的な思考	身近な物理現象	23.7	23.7	0.0
2	1	物体にはたらく力	知識・理解	身近な物理現象	63.8	68.2	4.4
	2	物体にはたらく力	技能・表現	身近な物理現象	93.0	93.8	0.8
	3	物体にはたらく力	科学的な思考	身近な物理現象	77.4	79.4	2.0
3	1	植物の分類	知識・理解	植物の生活と種類	65.7	68.7	3.0
	2	植物の分類	科学的な思考	植物の生活と種類	87.5	89.7	2.2
	3	植物の分類	科学的な思考	植物の生活と種類	53.1	55.1	2.0
4	1	蒸散のはたらき	知識・理解	植物の生活と種類	64.5	67.0	2.5
	2	蒸散と気孔	知識・理解	植物の生活と種類	68.6	70.1	1.5
	3	葉と蒸散の関係	科学的な思考	植物の生活と種類	49.6	51.3	1.7
	4	顕微鏡の使い方	技能・表現	植物の生活と種類	59.4	59.6	0.2
	5	顕微鏡の使い方	技能・表現	植物の生活と種類	55.3	58.5	3.2
5	1	気体の発生	知識・理解	身の回りの物質	68.0	69.6	1.6
	2	気体の発生	技能・表現	身の回りの物質	82.9	83.5	0.6
	3	気体の発生	科学的な思考	身の回りの物質	55.2	57.3	2.1
6	1	水の状態変化	知識・理解	身の回りの物質	63.5	63.5	0.0
	2	水の状態変化	技能・表現	身の回りの物質	59.5	59.6	0.1
	3	沸騰石のはたらき	技能・表現	身の回りの物質	72.7	75.5	2.8
7	1	地層の様子	知識・理解	大地の変化	80.0	81.5	1.5
	2	堆積の順番	技能・表現	大地の変化	60.8	62.2	1.4
8	1	火山灰の観察方法	技能・表現	大地の変化	31.7	29.9	-1.8
	2	鉱物の種類	知識・理解	大地の変化	69.1	67.5	-1.6
9	1	地震	知識・理解	大地の変化	83.6	86.9	3.3
	2	震源	技能・表現	大地の変化	85.2	85.9	0.7

## ⑤ 領域ごとの考察

### ア 身近な物理現象

ほとんどの小問で全国平均をやや上回っている。また、「物体にはたらく力」の単元では、力のつり合いの条件やつり合う力の図示に関して、昨年度と同様に通過率が高く、基礎・基本の定着が図られている。しかし、「凸レンズによる像のでき方」や「焦点距離」に関する小問では、全国平均と同程度であるが、昨年度の類似問題と比較して、通過率が低い状況である。

そこで、指導に当たっては、凸レンズのはたらきについての指導を徹底する必要がある。特に、実験を通して、物体と凸レンズの距離を変え、実像と虚像ができる条件を探らせ、実像の位置や大きさについての規則性を定性的に見いださせる授業の工夫が望まれる。

### イ 植物の生活と種類

4領域の中で、最も定着が図られていた領域であり、すべての小問で全国平均を上回っている。また、「植物の分類」と「顕微鏡の使い方」の一部の単元では、全国平均を3ポイント程度上回っており、基礎・基本の定着が図られている。しかし、「葉と蒸散の関係」に関する科学的な思考を問う小問では、全国平均と同程度ではあるが、50%程度の通過率で理解が不十分な状況である。

そこで、指導に当たっては、葉が多量な水を蒸散する器官であることを、葉の断面や気孔などの観察や蒸散に関する実験の結果などと関連付けて理解させるとともに、葉以外の部分からの蒸散量についても触れることが必要である。

### ウ 身の回りの物質

ほとんどの小問で全国平均をやや上回っている。また、「気体の発生」や「沸騰石のはたらき」等の記述式の小問では、全国平均を2ポイント程度上回っており、ある程度定着が図られている。しかし、「水の状態変化」の単元は、全国平均と同程度ではあるが、60%程度の通過率であり、理解が不十分な状況である。

そこで、指導に当たっては、水の特徴を理解させる授業を充実させる必要がある。特に、実験を通して、加えた熱はどのように影響するか、また、加熱を続けた水の状態変化について、グラフを読み取る力や実験における注意事項とその理由等もあわせて指導することが重要である。

### エ 大地の変化

領域全体で見るとほぼ全国平均と同じである。「地震」の単元では、昨年度よりも通過率が上回っており、基礎・基本の定着が図られている。しかし、「火山灰の観察方法」、「鉱物の種類」においては全国平均よりやや低かった。

そこで、指導に当たっては、火山灰などの噴出物は、性質の異なる何種類かの粒からなっていることを、実際に比較・観察することによって理解させることが必要である。特に、観察における技能の指導に加えて、注意事項とその理由等についてもあわせて指導することが大切である。

(5) 英語

① 概要

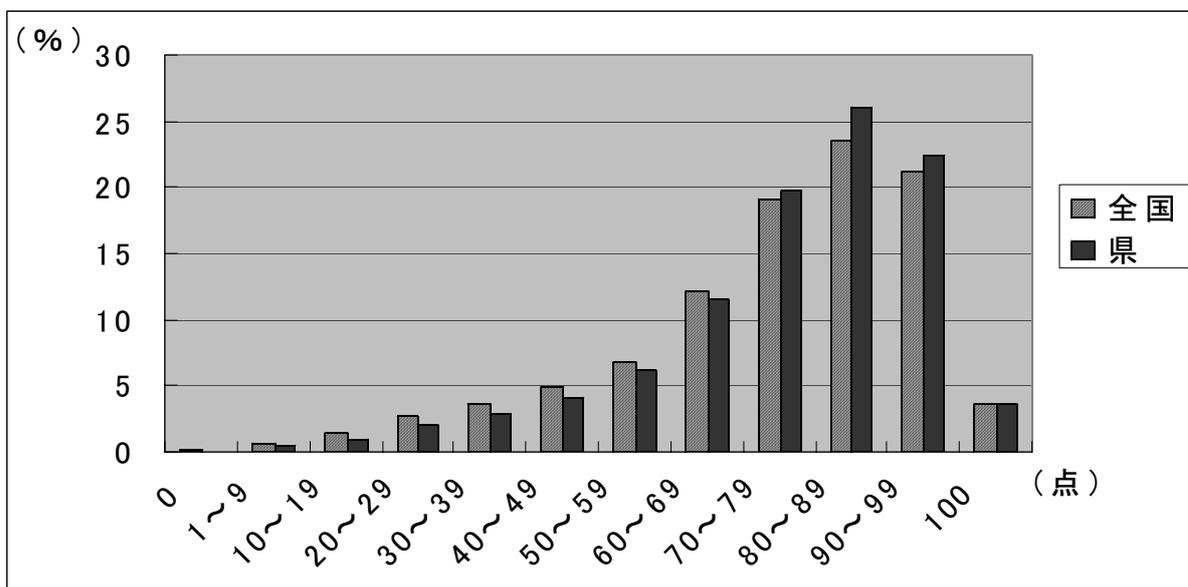
教科全体、各領域とも全国平均よりやや高い。教科に関する関心・意欲・態度についても、各設問に「とても」と回答している割合が全国平均よりやや高く、教科全体として概ね満足できる結果である。

「英語的表現」、「表現の知識理解」及び「会話表現・状況判断」に関する設問において、全国平均をやや下回っているため、今後は、英語を話したり書いたりする活動の充実が一層求められる。

② 平均点

		全国	宮崎県	全国との差
全 体	教科全体	73.5	75.7	2.2
	基礎	82.4	84.6	2.2
	応用	64.0	66.3	2.3
観 点 別	理解	83.4	85.6	2.2
	表現	63.0	65.2	2.2
	言語文化理解	75.6	79.5	3.9
領 域 別	リスニング	84.5	86.9	2.4
	読解問題	82.8	84.7	1.9
	文法・表現・英作文	65.8	68.2	2.4

③ 得点分布グラフ



④ 小問ごとの出題内容と通過率

大	小	出題内容	観点別	領域別	全国	県	全国との差
1	1	英文のリスニング	理解	リスニング	84.2	86.4	2.2
	2	英文のリスニング	理解	リスニング	92.2	92.7	0.5
	3	英文のリスニング	理解	リスニング	76.5	77.9	1.4
2	1	対話のリスニング	理解	リスニング	82.1	86.5	4.4
	2	対話のリスニング	理解	リスニング	87.5	91.2	3.7
	3	対話のリスニング	理解	文法・表現・英作文	84.1	88.0	3.9
3	1	英語的表現	表現	文法・表現・英作文	47.1	47.6	0.5
	2	英語的表現	表現	文法・表現・英作文	25.8	31.4	5.6
	3	英語的表現	表現	文法・表現・英作文	17.1	13.9	-3.2
4	1	表現の知識理解	表現	文法・表現・英作文	92.2	94.3	2.1
	2	表現の知識理解	表現	文法・表現・英作文	81.1	77.1	-4.0
	3	表現の知識理解	表現	文法・表現・英作文	80.7	82.6	1.9
5	1	会話表現・状況判断	表現	文法・表現・英作文	81.5	86.7	5.2
	2	会話表現・状況判断	表現	文法・表現・英作文	65.9	72.4	6.5
	3	会話表現・状況判断	表現	文法・表現・英作文	44.6	45.6	1.0
	4	会話表現・状況判断	表現	文法・表現・英作文	29.3	28.6	-0.7
6	1	並べ替え英作文	表現 言語文化理解	文法・表現・英作文	68.0	72.4	4.4
	2	並べ替え英作文	表現 言語文化理解	文法・表現・英作文	91.6	94.2	2.6
	3	並べ替え英作文	表現 言語文化理解	文法・表現・英作文	88.1	89.9	1.8
	4	並べ替え英作文	表現 言語文化理解	文法・表現・英作文	68.7	70.6	1.9
	5	並べ替え英作文	表現 言語文化理解	文法・表現・英作文	61.6	70.6	9.0
7	1	会話の状況把握	理解	読解問題	85.8	87.8	2.0
	(a) 2	会話の内容把握	理解	読解問題 文法・表現・英作文	72.6	75.2	2.6
	(b) 2	会話の内容把握	理解	読解問題 文法・表現・英作文	84.1	86.2	2.1
	3	会話の内容一致	理解	読解問題	92.2	93.7	1.5
8	(a) 1	英文の内容理解	理解	読解問題	89.4	91.1	1.7
	(b) 1	英文の内容理解	理解	読解問題	79.9	81.3	1.4
	(c) 1	英文の内容理解	理解	読解問題	59.6	61.5	1.9
	(a) 2	英文の内容把握	理解	読解問題	88.5	90.5	2.0
	(b) 2	英文の内容把握	理解	読解問題	88.5	90.7	2.2
	(c) 2	英文の内容把握	理解	読解問題	86.9	89.1	2.2

## ⑤ 領域ごとの考察

### ア リスニング

すべての小問で全国平均を上回っている。また、昨年度の類似問題との比較においても、上回っている。特に、対話のリスニングに関する通過率が全国の通過率に比べて高い。

そこで、指導に当たっては、今後も、生徒が英語を聞いたり、対話をしたりする場面を設定していくことを継続して取り入れていくことが大切である。また、対話や英文の内容を理解させる指導を行うときに、対話や英文における内容をつかむために、重要な語に気付かせる指導の工夫が必要である。その際、聞き取りの視点を示すことで、視点を意識した聞き取りの活動が行えるようにするとともに、大切な内容を聞き取ることに、日頃から慣れさせていくことが大切である。

### イ 読解問題

すべての小問で全国平均を上回っている。また、昨年度の類似問題との比較においても、通過率が上回っている。

そこで、指導に当たっては、教科書で用いられている会話文や英文を指導する際、訳読中心の指導とならないように留意するとともに、内容理解に関する活動を取り入れていくことが大切である。例えば、本文の内容に関する英問英答の活動や True or False の活動を継続的に行っていくことが望まれる。

### ウ 文法・表現・英作文

ほとんどの小問で全国平均を上回っている。しかし、英語的表現、表現の知識理解及び会話表現・状況判断に関する問題の一部で全国平均をやや下回っている。

そこで、指導に当たっては、語を正確に書くことができるように、日頃の授業や家庭学習の内容の提示を工夫することが大切である。また、会話でよく用いられる慣用的な表現を定着させるために、言語活動を行う際、既習の表現を意図的に取り入れて慣れ親しませていく必要がある。さらに、状況を的確に判断した会話が行えるようにするために、機械的な会話の練習だけに終わらず、相手の発話を聞いて自分の考えなどを伝える活動が行えるように、指導を工夫することが大切である。